

# エコアクション21 環境経営レポート

2019年度

(2019年度:2019年4月1日～2020年3月31日)

1. 組織の概要	P.2
2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日	P.2
3. 環境経営方針	P.3
4. 環境経営目標	P.4
5. 環境経営計画、取組内容、環境経営目標・計画の 実績・取組結果とその評価並びに次年度の環境経営 目標・計画	P.5
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	P.6
7. 代表者による全体評価と見直し・指示	P.6

2020年6月16日発行

株式会社ツルミコール  
(現 フタムラ化学株式会社 鶴見工場)



®環境省

エコアクション21  
認証・登録番号0008500

## 1. 組織の概要

### (1) 事業所名及び代表者代行者氏名

株式会社 ツルミコール  
取締役工場長 山内 武

### (2) 所在地

認証・登録範囲: 本社・工場 神奈川県横浜市鶴見区寛政町25番3号

### (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 青木 智之  
担当者 海野 恵介  
連絡先 〒230-0034 神奈川県横浜市鶴見区寛政町25番3号  
Tel 045-511-4346  
Fax 045-511-4349  
E-mail [Tomoyuki.Aoki@Tsurumicoal.co.jp](mailto:Tomoyuki.Aoki@Tsurumicoal.co.jp)

### (4) 事業活動の内容

活性炭の製造

### (5) 事業の規模

	本社・工場
売上高	10億5千万円(2019年度)
従業員数(人)	46名
延床面積(m <sup>2</sup> )	6,200m <sup>2</sup>

## 2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

### (1) 認証・登録対象組織

本社・工場(所在地は1. (2)に記載)

### (2) 認証・登録対象活動

本社・工場で行なう事業活動(内容は1. (4)に記載)

### (3) レポートの対象期間及び発行日

表紙に記載

### 3. 環境経営方針

#### 株式会社ツルミコールの環境経営方針

##### 基本理念

株式会社ツルミコールは、1939年に創業し、溶剤回収・ガス精製、浄水・下水浄化、空気浄化・脱臭用活性炭の分野で実績と経験をもつ活性炭製造メーカーです。

地球環境を守ることは全人類の使命の一つであることを認識し、活性炭製造と再生において環境保全と循環型社会に貢献することを目指します。

##### 環境経営方針

###### 1. 環境マネジメントシステムの推進

環境保全活動は、エコアクション21に基づいて取組みます。

###### 2. 環境に関する法律、規則、協定の遵守

国、地方自治体の環境関連法規を遵守します。

###### 3. 環境負荷低減活動の推進

企業活動によって生じる環境に影響を与える環境負荷のうち、次の6項目について優先的に取組み環境保全の継続的な改善に努めます。

- ① 二酸化炭素排出量の削減(都市ガス・電力等)
- ② 廃棄物の分別管理と再利用による減量化
- ③ 再生による再資源化
- ④ 排水量の再利用(SDG<sub>5</sub>への取り組み)
- ⑤ 化学物質使用量の削減
- ⑥ グリーン購入を積極的に進める
- ⑦ 顧客満足度の向上(書式作成での管理)

###### 4. 省エネルギー・省資源活動の推進

管理項目、管理値の記録を行い、社員全員での活動を行う。

###### 5. 環境コミュニケーションの推進

環境経営レポートはホームページで公表し、地域社会や地球環境に目をむけ幅広い観点から環境保全に努めます。

2011年4月1日制定

2019年4月1日改定

株式会社 ツルミコール

取締役工場長 山内 武

#### 4. 環境経営目標

環境経営目標	基準(実績)	中期目標		
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
生産数量	2,493t	2,493t	2,446t	2,450t
1. CO <sub>2</sub> 削減	1,469kg-CO <sub>2</sub> /t (生産量当り) (総量 3,662t-CO <sub>2</sub> )	1%削減 1,454kg-CO <sub>2</sub> /t (総量 3,873t-CO <sub>2</sub> )	2%削減 1,440kg-CO <sub>2</sub> /t (総量 3,522t-CO <sub>2</sub> )	3%削減 1,425kg-CO <sub>2</sub> /t (総量 3,491t-CO <sub>2</sub> )
①都市ガス 使用量削減	511 m <sup>3</sup> /t (1,077kg-CO <sub>2</sub> /t) (総量 2,685t-CO <sub>2</sub> )	1%削減 506 m <sup>3</sup> /t (1,066kg-CO <sub>2</sub> /t) (総量 2,839t-CO <sub>2</sub> )	2%削減 501 m <sup>3</sup> /t (1,055kg-CO <sub>2</sub> /t) (総量 2,580t-CO <sub>2</sub> )	3%削減 496 m <sup>3</sup> /t (1,045kg-CO <sub>2</sub> /t) (総量 2,560t-CO <sub>2</sub> )
②電力使用 量削減	904 kWh/t (377kg-CO <sub>2</sub> /t) (総量 942t-CO <sub>2</sub> )	1%削減 895 kWh/t (373kg-CO <sub>2</sub> /t) (総量 994t-CO <sub>2</sub> )	2%削減 886 kWh/t (369kg-CO <sub>2</sub> /t) (総量 904t-CO <sub>2</sub> )	3%削減 877 kWh/t (366kg-CO <sub>2</sub> /t) (総量 897t-CO <sub>2</sub> )
2. 廃棄物排 出量削減	(汚泥/生産量当り) 129 kg/t (総量 322t)	1%削減 128 kg/t (総量 341t)	2%削減 126 kg/t (総量 308t)	3%削減 125 kg/t (総量 306t)
3. 排水量 の削減	(生産量当り) 27.6 m <sup>3</sup> /t (総量 69,807m <sup>3</sup> )	1%削減 27.3 m <sup>3</sup> /t (総量 72,727m <sup>3</sup> )	2%削減 27.0 m <sup>3</sup> /t (総量 66,042m <sup>3</sup> )	3%削減 26.8 m <sup>3</sup> /t (総量 65,660m <sup>3</sup> )
4. 化学物質 使用量削減	(苛性ソーダ/生産量当り) 19.5 kg/t (総量 48,614kg)	1%削減 19.3kg/t (総量 51,415kg)	2%削減 19.1kg/t (総量 46,719kg)	3%削減 18.9kg/t (総量 46,305)
5. グリーン 購入	グリーン 購入比率 36.9 %	1%向上 37.3 %	1.5%向上 37.5 %	2%向上 37.6 %
6. 環境配慮 製品売上増	活性炭売上高 製品売上高 1,067百万円	1%増 1,078百万円	1.5%増 1,083百万円	2%増 1,088百万円

注(1)購入電力のCO<sub>2</sub>排出係数:0.418(東京電力)

5. 環境経営計画、取組内容、環境経営目標・計画の実績・取組結果とその評価並びに次年度の環境経営目標・計画

環境経営計画、 取組内容	取組結果とその評価(2019年4月～2020年3月)			
	環境経営目標	実績	取組 結果	評価並びに次年度の 環境経営目標・計画
1. CO <sub>2</sub> 削減	1%削減 1,469 kg-CO <sub>2</sub> /t ↓ 1,454 kg-CO <sub>2</sub> /t	14%減少 1,259 kg-CO <sub>2</sub> /t (3,899t-CO <sub>2</sub> /年)	○	・生産量が前年より増加した為、生産量に対する排出量は減少し、目標達成する。 ・来年度も炉の管理を行い、低減に努める。
①都市ガス 使用量削減 ・再生工程の稼働調整	1%削減 511 m <sup>3</sup> /t ↓ 506 m <sup>3</sup> /t	16%減少 431 m <sup>3</sup> /t	○	・生産量が前年より増加した為、生産量に対する排出量は減少し、目標達成する。 ・来年度も炉の管理を行い、低減に努める。
②電力使用量削減 ・包装工程等の 生産効率アップ ・エアコン温度適正管理 ・昼休み消灯(該当箇所) ・PC等の待機電力削減	1%削減 904 kWh/t ↓ 895 kWh/t	11%減少 808 kWh/t	○	・生産量が前年より増加した為、生産量に対する排出量は減少し、目標達成する。 ・来年度も炉の管理を行い、低減に努める。
2. 廃棄物排出量 削減 ・篩下の再利用 ・分別の励行	1%削減 129 kg/t ↓ 128 kg/t	9%減少 118kg/t	○	・有価物での処分等で廃棄物排出量の低減に努めた結果、目標達成。 ・再利用できる不良品を転用する等を行うことにより、削減を行う。
3. 排水量の削減 ・節水の励行 ・節水励行の随時PR	1%削減 27.6 m <sup>3</sup> /t ↑ 27.3 m <sup>3</sup> /t	12%減少 24.2 m <sup>3</sup> /t	○	・生産量が前年より増加した為、生産量に対する排出量は減少し、目標達成する。 ・来年度も各工程毎に使用量を把握し、低減に努める。
4. 化学物質使用量 削減 ・再生の適用 ・適正管理の実施	1%削減 19.5 kg/t ↓ 19.3 kg/t	5%増加 20.4 kg/t	×	・再生困難な再生炭の生産が多く、使用量が増加し、目標未達。 ・次年度は使用済みの状態を把握し、最適な条件での再生に努める。
5. グリーン購入拡大 (事務用品) ・エコ品目の拡大	1%向上 36.9 % ↓ 37.3 %	2%向上 37.5 %	○	・事務機器のエコマークが付いて製品の率先して購入した結果、目標達成する。 ・来年度もエコマークが付いている製品の購入を増やし、目標を達成する。
6. 環境配慮製品の 売上増 ・営業の推進 ・製品開発の促進	売上高 1%増加 1,067 百万円 ↓ 1,078 百万円	1%減少 1,055百万円	×	・再生炭の販売が減少した為、目標未達。 ・次年度は新製品の開発を急務とし、生産金額の増加に努める。

○:目標達成、×:目標未達

注 購入電力のCO<sub>2</sub>排出係数:0.418(東京電力)

6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無  
適用される主な環境関連法規等は次のとおりである。

適用環境関連法規等	適用される事項(施設、物質、事業活動等)
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(汚泥、廃プラ、廃油等)
下水道法	排水量50m <sup>3</sup> /日以上(特定施設の設置届出)
大気汚染防止法	バーナー容量 重油換算50ℓ/min以上
騒音・振動規制法	空気圧縮機
消防法(危険物)	指定可燃物(活性炭)他
横浜市生活環境保全条例	大気の汚染及び悪臭の防止に関する規制基準 敷地境界線における騒音の規制
フロン排出抑制法	業務用エアコンの簡易点検の実施

環境関連法規等の遵守状況を確認し評価した結果、環境関連法規等への違反・訴訟はありませんでした。なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

7. 代表者による全体評価と見直し・指示

(1) 全体評価

エコアクション21を構築して9年目として目標に向かって削減等を行った。今年は昨年と同様に再生炭の販売量が減少したが、生産量は販売量より増産した為、生産量は3,097tと昨年より多い結果であった。今年度は2012年度から行っている再生工程の生産量に沿った炉の稼働が行えた結果、CO<sub>2</sub>発生量は総排出量で昨年より多かったが、生産量あたりでの削減目標は目標達成となる。また、都市ガス・電気使用量の削減、廃棄物排出量の削減、排水量の削減、グリーン購入拡大も目標達成となる。しかし、化学物質使用量の削減と環境配慮製品の売上増は目標未達となった。本年度もエコアクション21のノウハウを生かし、環境関連法規の遵守、まだ不十分であるが主要な環境活動は概ね実施できた。次年度は本年度の削減方法の検討を行い、2012年度から行っている各工程での生産量に即した炉等稼働の検討を持続し、本年度環境目標を達成したCO<sub>2</sub>発生量の削減等は目標達成を継続し、目標達成できなかった化学物質使用量の削減等は次年度もう一度削減方法の検討を行う為、環境目標に関して変更を行わない。次年度は活動方法の改善、変更を行い、今後、全社員が一丸となってシステムの充実と改善に取り組んでほしい。

(2) 見直し・指示

- ① 二酸化炭素の排出では、生産量に即した再生炉の停止ができないことがあったが、都市ガスの総ガス使用量は昨年より増加したが、生産量が昨年より増加したため、生産量当たりの排出量は減少、目標達成。電気の各工程にメーターを確認することで使用量を各工程で確認できるようにしたが、総使用量は昨年より増加した。しかし、生産量増加により生産量当たりの排出量は減少、目標達成。二酸化炭素の排出量も生産量当たりの排出量で目標達成する。環境目標は変更しない。
- ② 廃棄物排出量では、本年度もより一層、有価物での処分、製品外品(篩上下)の有効利用に努めたが、排出量は昨年度より増加した。しかし、生産量増加により生産量当たりの排出量は目標達成。次年度も再生不可の使用済炭の再生方法の確立をし、また、包装工程で発生した製品外品の使用に努め廃棄物排出量の削減を行う為、環境目標は変更しない。
- ③ 排水量の削減は、昨年同様工業用水使用量と排水量が同じと定め、削減に努めた。多目的炉の工業用水使用量削減、洗浄方法の改善に努めたが、総使用量で昨年度より増加したが、生産量増加により、生産量あたりでの排出量は減少、目標達成。次年度は排水再利用の装置を設置し排水の再利用を行い、排水量の削減に努める。環境目標は変更しない。

- ④ 化学物質使用量の削減は、昨年度同様、環境に留意しながら再生を行ったが、再生困難な使用済炭の再生が多く、目標未達。次年度は使用済炭の組成確認、再生条件の検討を行い、低減に努める。環境目標は変更しない。
- ⑤ 本年度のグリーン購入はエコマークが付いている製品に努めた結果、購入品目が増加したし、昨年より比率は上昇した為、目標達成。次年度はグリーン購入出来ない事務用品をグリーン購入し、比率を増加させる。環境目標は変更しない。
- ⑥ 環境配慮製品で有る当社製品の売り上げは昨年度に引き続き再生炭の販売が低迷し、昨年よりは減少、目標未達と。次年度は今年度同様新製品の開発、新規顧客の開拓を行い、販売金額増加に努める。目標は変更しない。
- ⑦ エコアクション21のシステムを運用することにより、現在の環境に対する取り組み方法が確立、維持してきた。現在、適用事項から新規稼働する機械の振動・騒音関係、緊急事態につながり易い危険物管理(消防法)や排ガス・排水等の公害管理、新しい法令(化学物質リスクアセスメント)に万全を期すこととする。そして今後とも新たな法規制情報の収集に努める。

以上